



Title	今いる場所で一歩ずつ
Author(s)	嶋田, 聰
Citation	目で見るWHO. 2024, 90, p. 18-19
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/99623
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

今いる場所で一歩ずつ

世界保健機関西太平洋地域事務局 メディカルオフィサー

嶋田 聰（しまだ さとし）

小児科専門医。三重大学医学部医学科卒業。長崎大学大学院医歯薬学総合研究科修了。長崎大学熱帯医学研究所、厚生労働省、東京2020大会組織委員会、WHOコンサルタント、国立感染症研究所感染症危機管理研究センターを経て、2024年2月よりWPROに出向。

今の仕事について

2024年2月から世界保健機関西太平洋地域事務局のWHO健康緊急事態プログラム（WHO Health Emergencies Programme : WHE）に国立感染症研究所感染症危機管理研究センターより出向し、メディカルオフィサーとして勤務しています。WHO西太平洋地域事務局（WPRO）には、前回は2021年12月から約1年間WHOコンサルタントとして勤務しており、今回が2回目のWPRO勤務となります。西太平洋地域は37の国と地域が属していて、約19億の人々が暮らしています。言葉だけでなく国の大さや経済状況、文化的な背景もさまざまです。

現在はWHO健康緊急事態プログラムのHealth Emergency Information and Risk Assessment (HIM)というグループの一人として勤務していて、主に疫学者とともに西太平洋地域の感染症アウトブレイクや健康危機に関わる事象について情報収集するというイベント・ベ

ースド・サーベイランス（EBS）に関わる業務をしています。

ここでは、毎日の健康危機に関わるシグナルを国事務所やWHO本部への共有や地域内の季節性インフルエンザ、デングウイルス感染症や鳥インフルエンザのレポートのようなルーチンの作業から地域内で鳥インフルエンザのアウトブレイクなどが発生した際には別途情報を収集したり、リスク評価をしたりといった突発的な業務が毎日のように飛び込んできます。また健康危機といっても感染症のみならず、地震や火山のような自然災害や、熱中症や、多くの家畜が死に人々の生活に影響を与えるような雪害のような気候変動に関わるような事象も取り扱うため、毎日新しいことを学び続けることが必要です。業務の多くは地域事務局では完結しないことも多く、国事務所やジュネーブ本部とも連絡をとる必要があるため、時間的にはかなり不安定な業務になります。

また2011年から始まったWPRO実地疫学専門家フェローシッププログラム

（WPRO Field Epidemiology Fellowship Programme）にも関わっており、加盟国の政府機関などで働いている人材をWPROのフェローシップとして受け入れて、お互いの経験を共有し学びながら加盟国のためにより良いサーベイランスの仕組みづくりをしています。今年は2024年6月現在で4カ国からのフェローシップが参加しています。

毎日知らないことや新しいことばかりで、大変なことが多いですが、毎日気づきと学びを与えてくれる心から尊敬できる上司と、多才で優秀な同僚たちに囲まれて、本当に恵まれた環境で仕事させてもらっていると思っています。

将来WHOを目指す人へ

専門性や職業を問わず、様々な進路からWHOに関わることはできると思いますが、何らかの専門性を身につけておくことや、日本の保健医療や公衆衛生の体制を理解しておくことが必須だと私は思います。自分の国の事情がわからないと他の国のこと理解するのは難しいです。また専門性も大事ですが、同時に自分の中にここまでと線引きをすることなく、常にさまざまなことに興味を持ち続けることだと思います。

私は市中病院で一般の小児医療とアレルギー医療を専門とする小児科医でしたが、医学部生の頃から途上国の医療に関心を持っていたため、専門医を取得してから、ずっと行ってみたかった長崎大学の熱帯医学研究所に進学しました。長崎大学では小児医療から関心のあった熱帯ウイルス学分野に進み、マダニや蚊が媒介するウイルスの検査の確立やマダニから新しいウイルスを同定する研究に関わ



オフィスで一番好きな風景。オフィスの中庭に掲げられている加盟国の旗です。普段はあまり日に当たらないようにしているので、毎日どこかの時間でここに来て日光を浴びながら旗を見ることによって、辛くても加盟国の人のために頑張ろうというモチベーションが上がりります。

りました。在学中は、WPRO に出向されていた熱帯医学研究所の熱帯ウイルス学分野の森田公一教授や WHO の世界リンパ系フィラリア症制圧計画 (Global Programme to Eliminate Lymphatic Filariasis: GPELF) に長年貢献された一盛和世教授に出会う機会があり、漠然とでしたが、公衆衛生や WHO について関心が出てくるようになりました。

大学院修了後は厚生労働省健康局結核感染症課の医系技官として 2 年間、新しいサーベイランスシステムの導入や大阪 G20 サミットや 2019 年のラグビーワールドカップなどのマスギャザリングにおける公衆衛生対応の業務や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（東京 2020 大会）のための公衆衛生の政策に関わる仕事をしました。厚労省退職後は、東京 2020 大会組織委員会で東京 2020 大会の全般的な公衆衛生担当にも直接関わり、選手等を含めたすべて関係者の大規模な検査の導入や選手等の隔離施設の管理に関わりました。

実際に公衆衛生に関わった業務は 4 年程度でしたが、日本の公衆衛生の仕組みに関わることができた貴重な時間であり、ここで経験した業務や人々との出会いが現在のキャリアに活きていると思います。

WHO に関わることを目標とすれば、他の WHO 職員やコンサルタントと比べて、自分はずっと周り道をして、きっとずいぶん時間がかかっています。たぶん WHO を目指しているこれからの人たちにとっては自分の経験や経験は全く役に立たないと思います。それでもその時その時のキャリアを一步ずつでも一生懸命続けること、それからいつも外を見

て、さまざまなことに関心を持ち続けることが今後の将来に繋がっていくと思います。

難しいこと

難しいことというとやはりコミュニケーションだと思います。毎日の英語のやりとりは難しいことはもちろんのこと、特に自分が WHO と関わりだした時はオンラインのミーティングが多かったので、それがさらにやりとりを難しくさせます。英語は今でも毎日勉強していて、書いたものの英語のチェックやわからない表現などがあると同僚のところに行って教えてもらっています。また毎年新しいメンバーが世界中から来て一緒に仕事をするので、SOP (標準作業書) をきちんと書いてみんなが理解できるような合意された文書を作っていくことも時間がかかります。とても大切なことですが、読んで誤解がないような文章を作っていくのはとても難しく感じます。それから WHO のフレームワークやさまざまなツールキットがあり多くは初めて知るようなものもあります。知らないとそれらを今の課題に組み合わせていくことが難しいため、週末になると過去の WHO の枠組みの文書を読んで知見を増やしています。

最後に

今後は加盟国のサーベイランスの向上のために国事務所や加盟国と協力して仕組み作りを行なっていく予定です。WHO に着任してから時間があまり経っていないので、まだまだ何も成し遂げられていませんが、出向中の限られた時間の中で加盟国のサーベイランスの向上や

危機管理に関わり、出向中に得られた経験を出向元の国立感染症研究所に還元できればと考えています。また、厚生労働省や東京 2020 大会組織委員会で関わっていたこれまでの公衆衛生の業務で経験したことやうまくいかなかったことがあります。特に東京 2020 大会の業務については、とても辛い時期でしたが、今でもああしておけばもっと良かったのかなと思うことが今でもあります。そういうふうにいったことやいかなかった経験も活かして、公衆衛生の立場から西太平洋地域の人々の安心と安全のお手伝いができるたらと思います。

【参考文献】

- Shimada S, Ikenoue C, Iwashita Y, Miyamoto T. Contributions of the Tokyo 2020 Infectious Diseases Control Centre in curbing SARS-CoV-2 spread during the Olympic and Paralympic Games. British Journal of Sports Medicine 2023;57:6-7.
- McCloskey B, Saito T, Shimada S, Ikenoue C, et al. The Tokyo 2020 and Beijing 2022 Olympic Games held during the COVID-19 pandemic: planning, outcomes, and lessons learnt. The Lancet, V403, 2024: 93-502.
- World Health Organization. Second Meeting of the Western Pacific Region Emerging Molecular Pathogen Characterization Technologies (EMPACT) Surveillance Network, Manila, Philippines, 1-2 September 2022: meeting report